

保健室からの発信



in 福島

2018 夏の全国学習交流集会

すべての子どもと教職員の生命とひとみ輝く学校づくり

全教養護教員部では目の前の子どもたちの成長と発達を願い、多くの人と手をつないで支援することを大切に、毎年、全国学習交流集会を開催しています。

今年は震災から7年の福島で開催します。記念講演は、東京医科大学茨城医療センター精神科科長・准教授の榊屋二郎さん、現地主催の自主講座にはさくら保育園（社会福祉法人わたり福祉会）園長の安彦孝さんにおこしいたします。分科会では全国各地の実践をもとに、大いに学びあい、交流しましょう。みなさんの参加をお待ちしています。

と き **2018年7月28日(土) 7月29日(日)**

ところ **福島市かむろみの里 穴原温泉 匠のこころ 吉川屋**

参加費 **3500円 (学生2000円)**

◆おもな日程

7月28日	12:00-	受付	13:00-15:45		移動	16:00-17:00	自由時間	18:30-20:30
			開会集会・記念講演			自主講座 分科会担当者 打合せ		夕食交流会
7月29日	9:00-12:00	昼食休憩	13:00-15:15	-16:00	* 参加申し込みは 申し込みサイトより 期間を守って申し込んでください。			
	分科会		分科会					

主催：全日本教職員組合（全教）養護教員部

〒102-0084 東京都千代田区二番町1 2-1 全国教育文化会館 3階全教気付

TEL 03-5211-0123 fax 03-5211-0124

現地実行委員会：福島県立高等学校教職員組合 TEL 024-523-3866

現地実行委員長：朝倉 由美子

記念講演

愛着障害と子どもたち ～子どもを育むために 学校・保健室でできること～

講師 榎屋 二郎 さん

東京医科大学茨城医療センター精神科 科長・准教授



福島では震災の後、家族の分断をはじめ、大人側の不安も大きく、子どもたちは様々な不適応を起こすなど、愛着の問題を抱えている子がたくさんいます。

児童精神科の榎屋医師は福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室で診察を行い、『医療巡回相談』で発達や行動で課題や不安を抱えている子どもや保護者に面接や心理アセスメントを実施し、必要な支援につなげる活動をされています。

被災地だけでなく、今、わたしたちの周りには虐待をはじめ、愛着の問題を抱える子どもたちがとても増えています。その原因も実に様々です。

福島の子どもの様子を中心に、愛着障害についての理解を深め、チームで子どもを守り、育てることが求められる今、学校・保健室では何ができるのか、みんなで学びあいましょう。

プロフィール

H17 医学博士

H19 神奈川医療少年院に矯正医官として入職

H24 関東医療少年院にて医務課長に

H26 現職

・東京医科大学茨城医療センター
精神科 科長・准教授

・福島大学こどものメンタルヘルス
支援事業推進室客員教授

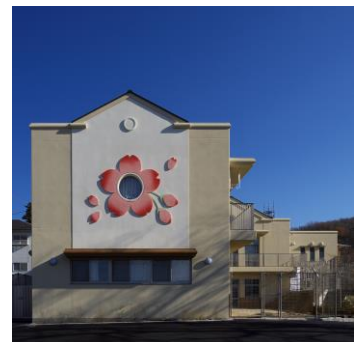
・NPO 法人 Panda-J のメンバーとして
も活躍中

自主講座

子どもたちのためにできること ～保護者とともに放射能と向き合って～

講師 安彦 孝 さん

社会福祉法人わたり福祉会さくら保育園園長



さくら保育園のある福島市渡利地区は、3.11の震災・原発事故直後、市内でも比較的放射線量の高い地域となり、自主避難をする人も少なくありませんでした。

それでもさくら保育園は、様々な事情で避難できない保護者と園児のために休まずに保育を続けました。そして、放射能への不安のあるなか、子どもたちの命と健康を「守る」だけではなく、子ども時代にふさわしい生活と遊びの中で「育つ」ことも同時に保障しようと奮闘しました。今回は、その実践をお話させていただきます。

私たち養護教諭も、日々成長する子どもたちと向き合っています。子どもたちの「今」を大切にするために必要なことは何かに、気付くことができるかもしれません。